

令和3年度 栃木市教育研究所 研究所員研修会 研究記録カード

1 部会名	特別支援教育 部 会		
2 研究員	小学校 2名	中学校 2名	事務所員 2名



3 研究テーマ

主体的に学ぶことができる環境づくり

4 研究の取組

(1) 研究内容

①対象児童生徒の理解

- ・特性、うまくいっていること、うまくいっていないこと→支援→主体的に学ぶ姿（目標とする姿）
- ・うまくいった支援とうまくいかなかった支援、見取り

②通常学級における支援

- ・教室環境
- ・全体への支援と個別への支援

③実践例の協議、授業参観

(2) 研究のあゆみ

月 日	実践内容	月 日	実践内容
5月10日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	12月	実践報告、研究のまとめ
6月21日	研究テーマ・内容の協議、計画作成	1月	発表練習
7月末～8月	実践報告会（オンライン）	1月21日	栃木市教育研究発表会
10月1日	実践授業検討		
10月末	実践授業内容検討		
11月中	授業参観、実践報告		
11月22日	実践授業振り返り	2月10日	3年次報告提出

5 研究の成果と課題

【成果】

- ・普段やっている活動に意味付けができた。
- ・できた、できないではなく、どうしてできないか、どうすればできるかを意識をして支援することの大切さが実感できた。
- ・対象とする子以外の周りの子どもについても、UDの観点で見ることができた。
- ・1人1人の特性の理解が深まった。
- ・1人がわかることが全体がわかることにつながることを実感できた。
- ・対象の児童が自己理解を図れるようになった。周りの子供の理解も広がった。

【課題】

- ・高いレベルを望んでいる児童に向けての授業。1人1人に合う支援。正解のない難しさがある。
- ・全体指導しながら個別指導する難しさ。個に応じた教材の工夫。
- ・保護者の同意が得られていない子どもの支援に関する引継ぎをどのように行っていくか。（すくすくシート）
- ・若い教員との共通理解。

6 さらに研究していきたいこと・次年度の構想

- ・高いレベルを望んでいる子どもも、苦手なことが多い子どもも満足できるような授業づくりについて。
- ・将来を見据えた学びについて。